

戦争と平和を学ぶ歴史学習
土浦日本大学高等学校 栗林 幸雄

1. 実施学年及び教科・領域

高等学校2年生 地歴公民科 世界史A 1クラス(35名)

2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 単元名 世界戦争と平和

第一学習社『改訂版 世界史A』第3編地球社会と日本 第3章世界戦争と平和

(2) ねらい

①学習指導要領との関連

本単元は、高等学校学習指導要領地理歴史科編「2内容とその取扱い」「イ世界戦争と平和」の「帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、二つの世界大戦の原因と総力戦としての性格、それらが世界と日本に及ぼした影響を理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる」ことを受けて設定した。

徴兵制を実施し近代的軍隊を編制した日本は、戦争を通じて植民地の拡大を図る一方、軍隊が地域社会との結びつきを強め、総力戦体制を築いていく過程を理解させる。

②単元の目標

I 明治期以来の帝国形成過程を理解する(関心・意欲・態度)

II 徴兵制度と兵営生活を学び、軍隊と地域社会の関係を理解する
(思考・判断、知識・理解)

III 戦争ポスターを分析し、政治宣伝のねらいを考える(資料活用の技能・表現)

(3) 博物館との関連

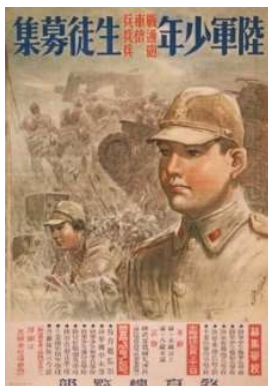
①活用方法

「来館型活用」と「非来館型活用」の併用

②活用資料

貸出教材「戦争ポスター」

I



「陸軍少年戦車兵・通信兵・砲兵生徒募集」

II



「国民体力法被管理者調」

III



「祝へシンガポール陥落を!」

IV

V

VI



「陸軍特別幹部候補生」



「武装台湾」



「今こそ援護も決戦調」

- I 「陸軍少年戦車兵・通信兵・砲兵生徒募集」(No.5) II 「国民体力法被管理者調」(No.7)
 III 「祝えシンガポール陥落を！」(No.8) IV 「陸軍特別幹部候補生」(No.16)
 V 「武装台湾」(No.18) VI 「今こそ援護も決戦調」(No.21)

(4) 指導観

本校グローバル・スタディコースは、国内外の大学入試に対応できる英語力の育成と、留学や各種実習など体験型学びの実践を行うコースである。実践的な英語力と論理的な思考力や国際理解力を身につけることを目指しており、海外大学への進学を目指す生徒も多い。毎年12月に実施している校外実習の機会を利用し、世界史学習において近現代の日本史を扱い、国際関係や異文化理解を主題とし、英語を活用した演習も取り入れた授業を立案した。

3. 指導計画 (5時間扱い)

過程	時間	○学習活動及び内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
事前学習	1時間	<ul style="list-style-type: none"> 近代日本の植民地について学ぶ 徴兵制度について学ぶ 貸出教材「戦争ポスター」 6班に分かれ、戦争ポスターを見て話し合った内容を各自が書き留める。順次、次の班に回覧させ、すべてのポスターについて作業する	□ 徴兵されなかった理由を考えさせ、在学猶予や満洲移民を読み取らせる □ 誰を対象とし、何を訴えているかを考え、意見を互いに交換させる ■ 資金・人材・対象等プロパガンダポスターの意図を理解できたか
校外実習	3時間	展示室見学 ①11:00～11:30 ガイダンス ②11:30～12:00 自由見学 ③13:00～14:00 第6展示室見学 ④14:15～15:00 グループ学習 英語キャプションを考える	■ 事前学習と関連させて、個々の展示品の意味を理解できたか ■ 展示室全体を俯瞰し、時代の特徴を理解できたか □ ポツダム宣言が、日本を「世界征服」を企図したと糾弾した意味が理解できたか
事後	1時	レポート課題	□ 学んだ成果を、発展的な課題を通

学習	間	<ul style="list-style-type: none"> ・日本はなぜ領土を拡大し続けたのだろうか？ ・なぜ日本はアメリカ合衆国と戦争をしたのだろうか？ ・戦争の歴史を学び、平和な時代を築くためには何が必要か？ 	じて深めることができたか
----	---	--	--------------

4. 実践の概要

(1) 事前学習

① ワークシートを利用した講義

戦前の日本は、日清戦争を通じて台湾を、日露戦争後に朝鮮を、第一次世界大戦後には南洋諸島を事実上の植民地とした。本国と植民地との間には交通路が整備され、人の移動が活発になったことを指摘した。徴兵制度については、基本的な仕組みを説明した後、徴集延期者に着目して、その理由を考えさせた。逃亡や在学猶予などが見られたほか、移民が事実上黙認されたことを指摘し、「人の盾」として満州とソ連の国境に移民を送り込む満蒙開拓という政策に言及した。

② 貸出教材「戦争ポスター」の活用

プロパガンダ（政治的宣伝）のねらいと時代背景を考えさせる授業を行った。貸出教材「戦争ポスター」を活用して、班ごとにポスターの意図を考えさせた。1つのポスターにつき、5分程度の時間を設けて互いに意見を述べ、ローテーションしてすべてのポスターについて考えさせるようにした。背景知識を必要とせず、生徒が率直に感想を述べることで、階級章や少年の表情など多角的に考察することができた。各班で話し合った内容はワークシートに記すように指示したが、その場で発表させ、ICTを活用して内容を全体で共有することができればさらによかったのではないかと思う。



(2) 歴博での授業

① ガイダンス

最初にガイダンスルームで学校対応職員の方に、「徴兵制度」について講義をしていただ

いた。戦争ポスターに焦点を当てた授業を補い、展示室での見学を充実させるために有効な講義であった。以下は生徒の感想の一部である。

初めのガイダンスが衝撃的だった。現代の人には絶対自ら入隊を望む人はいないと思うが、昔は考え方が違った。軍に入ることが、真の1人の男性として認められていた。また、多くの人を殺した人が英雄となり、昇進していた。軍人の1日は見るに耐えられなかった。移動は常にダッシュ、軍人の五箇条を学ぶことにより洗脳され、訓練を行う。私は、軍人同士は仲良く助け合っていると思っていたが上下関係の厳しさ、暴力の激しさを知り驚いた。

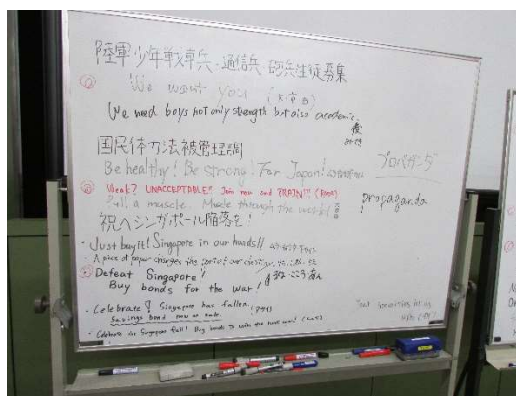
② 第6展示室での講義

ガイダンス後、第6展示室で講義を行った。第6展示室「戦争と平和」のコーナーは、日清戦争の展示から始まる。ここから展示室内部を見渡すと、先には50年後に起こる太平洋戦争の展示が見える。見学者は50年に及ぶ近代日本の歩みを体験することになる。日露戦争や第一次世界大戦を経て太平洋戦争に至るまで、負けることを知らない歴史が広がっていることに気づく。

展示室では、ガイダンスで学んだ徴兵制度について理解を深め、軍隊が国民生活を掌握する過程を学ぶことができた。50年に及ぶ近代日本の歩みを経て、太平洋戦争の最後にポツダム宣言を掲載した新聞を示し、第6項で日本が糾弾された理由を考えさせた。ポツダム宣言第6項では、日本は「世界征服」を企図したと指摘されている。植民地の獲得過程が、他者から見ると「世界征服」ととらえられたことを指摘し、異なる視点をもつ意義を強調した。

③ グループ学習

事前学習で使用した戦争ポスターを提示し、英語キャプション（見出し）を考えさせてグループ単位で発表させた。生徒の案は以下の通りであった。



I 「陸軍少年戦車兵・通信兵・砲兵生徒募集」(No.5)

We want you.

We need boys not only strength but also academic.

II 「国民体力法被管理者調」(No.7)

Be healthy! Be strong! For Japan!

Weak? UNACCEPTABLE!! Join now and TRAIN!!!

Pull a muscle. Muscle through the world.

III 「祝えシンガポール陥落を！」(No.8)

Just buy it! Singapore in our hands!!

A piece of paper change the port of our destiny.

Defeat Singapore! Buy bonds for the war!

Celebrate! Singapore has fallen. Savings bond now on sale.

Celebrate the Singapore fall! Buy bonds to win the next war!

IV 「陸軍特別幹部候補生」(No.16)

Get in the army. Get a better life.

WANTED!!! special candidate-executive.

V 「武装台湾」(No.18)

Soldiers “WANTED” in Taiwan!

Japan is superior to Taiwan! Come and lead!

Ahead to Taiwan! Become the star!

VI 「今こそ援護も決戦調」(No.21)

Stand up all women!!! One for all , All for one!

Now is the time to do war as a team of Japan.

Support your boys!! The decisive battle is coming up.

(3) 事後学習

前年の反省を活かし、展示内容の要約や感想文をまとめるだけでなく、発展的な課題を通じて、理解を深めさせようと試みた。レポートでは、以下の3つの問いを生徒に課した。

- ・日本はなぜ領土を拡大し続けたのだろうか？
- ・なぜ日本はアメリカ合衆国と戦争をしたのだろうか？
- ・戦争の歴史を学び、平和な時代を築くためには何が必要か？

以下は、生徒のレポートの一部である。

※1つの国からの視点で判断せず、それぞれの国の状況、考えを理解した上で多様な視点から物事を判断すること

※歴史はよく自国の欠点を隠したり、不利な事実を公表しなかったりするが、戦争についての真実を隠すことなくずっと後世に語りついでいくことが必要だと思う。

※最後に二度と戦争を起こさないためには、私達若者がもっと戦争について深く学び、知る機会を増やすことだ。また、政府、日本も包み隠さず、ありのままの歴史を国民に伝え、それを受け継ぐ、語り継ぐ必要があると感じた。海外の人などに日本について(文化や歴史)を聞かれたときに、しっかり答えられるように、これからも日本史を学び続けたい。

5. 成果と課題

・戦争ポスターの利用

事前学習と来館時の際に利用した。資金や人材の獲得を目的としたプロパガンダ（政治宣伝）は比較的とらえやすかったのではないかと思われる。事前学習ワークシートに生徒が記述したまとめから目的は達成できたと感じている。ただ、米国のポスターを見ると、メッセージ性がより鮮明である。例えば、アンクルトムの募兵ポスターや、「我々にはできる！」という「リベット打ちのロージー」シリーズは現代アメリカ社会を見る上でも有効である。生徒の考察には **Make Taiwan great again** など現代政治のスローガンをもとにしたものや、**Buy One Get Free Country** は商業広告をもじったと思われるものがあった。発想の原点を議論して深めることができればさらにいいのではないかと思う。より多様なポスターの発掘と、英語キャプションの指導方法改善の必要を感じた。

・異文化理解

近代日本の植民地拡大の過程は、日清戦争や日露戦争から太平洋戦争まで戦争の歴史である。徴兵制度を通じて軍隊が国民を掌握し、民主主義が不徹底だったため、軍隊を統制する仕組みが機能せず、総動員体制が着々と築き上げられた。教科書に沿った歴史記述を、展示を通じて再確認することができた。しかし、第6展示室「戦争と平和」コーナー最後に展示されているポツダム宣言は、日本に降伏を勧告する中で、その理由を「世界征服」を企んだからだと糾弾した。戦前日本の膨張が、警戒の眼を持って見られていたことにも注意を促したい。戦間期における国際連盟の創設、軍縮条約及び不戦条約の締結を通じて世界平和を実現しようという試みや、人民戦線など反ファシズムの動きに共鳴する動きが、日本で力を得なかった理由や課題を考察することができれば、歴史理解を深めることになったと思う。

・歴史学習の課題

事後学習において課したレポートから、生徒は、戦争が良い結果を生まないことや、歴史には異なる視点があることを理解した。さらに、指導者に必要な資質、情報の正しい理解など現代社会においても重要な観点にも指摘が及んでいることは頼もしく感じた。あえていえば、善悪や喜怒哀楽の感情を、具体的な事実で裏付けて表現すると説得力が増すのではないかと思う。歴史学習を深めて、より効果的な主張の仕方を訓練することでさらに可能性が広がるはずである。

事前学習において、貸出教材「戦争ポスター」を閲覧する学習を行う際、生徒から吸い上げた意見を踏まえ、事後学習のレポート課題を設定するとよいのではないかと思った。

2019/12/17

歴史民俗博物館 校外研修ワークシート①

GS2年1組 番

氏名

1 植民地の拡大

戦前日本の植民地になったのはいつですか？

① 台湾

② 朝鮮

③ 南洋諸島

2 徴兵制度

満 20 才（12 月 2 日～翌年 12 月 1 日までに 20 才に達した者）男子を対象

甲乙丙丁戊の五段階で判定（身体検査のみ、3 名の軍医が 150 人ほどを検査）

海外在住…移民や留学。徴兵忌避の手段と考えられたが、陸軍は容認

生活苦…支援制度があるとの理由でほとんど認められず

新成人の数 123 万人（2018 年）・センター試験受験者数 57.6 万人（2018 年）

陸軍が国民と接する貴重な機会

兵役 2 年（←3 年）、予備役・国民兵役等（満 40 才まで。43 年 11 月以降は 45 才）

図 徴集延期者の理由・人数

	1938	1939	1940	1941	1942
徴兵検査対象者	805,686	823,423	955,898	958,945	885,456
生活苦	142	63	25	9	7
在学猶予	96,340	104,760	124,225	140,926	97,214
海外在住（移民）	60,565	64,663	69,085	72,022	76,279
逃亡等	9,978	9,675	9,642	9,400	8,778
服役中	67	73	42	60	54
裁判中	3,140	3,171	2,794	2,958	3,080
疫病等で未定	6,647	7,273	8,790	9,660	10,911
未受験	1,089	960	1,312	2,090	929

出典 一ノ瀬俊也『皇軍兵士の日常生活』（講談社，2009 年，p.35）を元に作成。

表現は改めた。

3 戦争ポスターに学ぶ

課題 各ポスターについて、話し合った内容や気づいたことを記す

① 「陸軍少年戦車兵・通信兵・砲兵生徒募集」(No.5)

② 「国民体力法被管理者調」(No.7)

③ 「祝えシンガポール陥落を！」(No.8)

④ 「陸軍特別幹部候補生」(No.16)

⑤ 「武装台湾」(No.18)

⑥ 「今こそ援護も決戦調」(No.21)

2019/12/18

歴史民俗博物館 校外研修ワークシート②

GS2年1組 番

氏名

歴博（れきはく）巡り

課題 以下の展示から1つ選んで、展示内容をまとめよう

- ① ハワイ：日本人移民の150年と憧れの島のなりたち（企画展示室A・B）
- ② 石鹸・化粧品の新現代史（第4展示室）
- ③ 『もの』からみる近世「描かれた寺社境内」（第3展示室）

選択した課題

展示内容

戦争ポスターの英語キャプションを考える

課題 各ポスターのキャプション（見出し）とその理由を考えて発表しよう。

「陸軍少年戦車兵・通信兵・砲兵生徒募集」（太平洋戦争期）

「国民体力法被管理者調」

「祝へシンガポール陥落を！ 買へ戦時貯蓄報国債券を！」昭和 17（1942）年か

「陸軍特別幹部候補生」

「武装台湾」（昭和 19 年か）

「今こそ援護も決戦調」

研修レポート

以下の点について、調べたことや考えたことをまとめなさい

- ・日本はなぜ領土を拡大し続けたのだろうか？
- ・なぜ日本はアメリカ合衆国と戦争をしたのだろうか？
- ・戦争の歴史を学び、平和な時代を築くためには何が必要か？